

東京大学大学院 人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告
Digital Humanities Summer Institute, University of Victoria

提出日：2012年6月15日
社会学専修課程4年 土屋桃子

1. 基本情報

行動文化学科社会学専修課程4年

土屋桃子

派遣形態：推奨プログラム

2. 当初の計画の概要

私が本プログラムに応募した理由は、卒業論文を書く前に文献資料の扱い方を身につけておく必要があると感じたからである。

私は動物愛護法の国際比較に興味があり、卒業論文は「動物愛護管理法の改正における世論の形成と『政治主導』のゆくえ」をテーマに執筆する予定である。研究を行う上での資源として、国会の法案審議の議事録、環境省の小委員会の議事録、法改正に関するパブリックコメント、各自治体や動物保護団体が保管している資料などが挙げられるが、それらの情報が一元化されていないため、研究者にとっても一般の市民にとっても実情を知りにくい。そこで、本プログラムを通して、大量のデータを目的別に整理する方法や研究資源として活用する方法を学び、卒業論文の執筆に役立てたい。

3. 実際に達成された成果

授業はデジタル化に関する基礎的な内容が中心だったので、人文情報学に触れるのは初めての私でも理解できる内容であった。具体的には、画像や音声、映像などの資料をコンピュータ上で編集・加工する手法や、ウェブの特性を活かしたデータ処理の方法を学んだ。Photoshop、Audacity、Text Wranglerなどの各ソフトウェアを実際に使いながらの授業が中心だったため、理論だけでなく研究への応用も学ぶことができた。学術的な利用だけでなく、今後の生活において幅広く使える技術だと感じた。

ただし、1週間という時間の制約もあり、学んだことを応用して成果物を生み出すには至らなかった。今後 卒業論文を執筆する上での課題としたい。

卒業論文の執筆に際して扱う資料は議事録などの文字資料が中心となるが、本プログラムで学んだ非文字資料の扱い方も参考にしたい。また、著作権などの問題に配慮しながら、集合知としてのウェブを今まで以上に活用して研究を進めたい。

4. 感想

今回派遣された 4 人の学生の中で私は最年少であり、しかも情報人文学に関する知識は無きに等しい状態だったので、渡航する前には授業について行けるのか不安も大きかった。

しかし、中村雄祐先生、永崎研宣先生が事前に勉強会を開いてくださった甲斐もあって、基礎知識を学んだ上で授業に臨むことができた。特に、永崎先生にご教授いただいた HTML の書き方は渡航先でも大いに役立った。この場を借りてお礼を申し上げたい。

今回のプログラムに参加して、北米の学会の雰囲気を肌で感じることができたのが、大きな刺激となった。参加者のバックグラウンドは人文系の諸分野に及んでおり、クラスでは教授も学生も形式ばらずに意見を交換する場があって、情報人文学に関する各人の立場や考え方を知ることができた。

また、クラスでの授業だけでなく、ヴィクトリアの美しい自然や文化に触れることができ、海外での学生生活を体験することができた。私は修士課程で海外の大学院に留学することを希望しているので、1 週間という短い期間ではあったが、実際に学生や教授と生活を共にし、現地の人々と交流することができて非常に有意義であった。

以上